

No.  
148

令和元年5月号

鎌倉市長 松尾 崇の



# 月刊 温故知新 鎌倉

## ■ 松尾 崇(まつお たかし/45歳)の履歴 ■

昭和48年鎌倉市生まれ、西鎌倉幼稚園、西鎌倉小学校、鎌倉学園、日本大学、会社勤務を経て、鎌倉市議会議員・神奈川県議会議員を通算約8年間勤め、平成21年より鎌倉市長(現在3期目)。家族は、妻と3人の娘(5歳7歳11歳)。趣味は山登り、ジョギング。座右の銘は『温故知新』

### ごみの焼却施設をつくりません

鎌倉市ではこれまで、老朽化している焼却施設(名越クリーンセンター)に続く、新たな焼却施設を計画してきました。

しかし、技術革新が進み、社会状況が変化する中で、改めて検討を重ねた結果、焼却施設をつくるのではなく、ごみの減量・資源化をさらに進め、残った燃やすごみは、処理費を支払って市外で焼却する方が、費用面や環境面では優位性があることが明らかになりました。よって、このたび、焼却施設をつくらずに、ごみ処理を進めていく方針を発表しました。

今号では、その内容の詳細をご説明させていただきます。

### 背景①焼却施設に余裕が出ています

平成28年度末の全国の焼却施設の焼却量を試算したところ、国内で年間 **5,054 万トン** の可燃ごみの焼却が可能と考えられますが、平成28年度の可燃ごみの総量(リサイクル率等から推計)は年間 **3,438 万トン** となり、焼却可能な余剰分は相当多くあると考えられます。

また、神奈川県内の状況(平成28年度)は、神奈川県全体の焼却施設の焼却量の試算では、年間 **316 万トン** の可燃ごみの焼却が可能と考えられますが、同年度の可燃ごみの総量が **157 万トン** であることから、県内においても同様の傾向にあることが分かります。

### 背景②ごみが減ってきています

日本全体のごみ総排出量は、平成19年度に5,082万トンであったものが、平成28年度には4,317万トンまで減少しています。鎌倉市でも以下の表のように、平成22年度にごみ総排出量が約7万トン、可燃ごみが約4万トンであったものが、平成29年度には、それぞれ約6万トン、約3万トンと減少しています。

項目 \ 年度(平成)	22	23	24	25	26	27	28	29
人口(人) (各年度10月1日)	174,314	174,250	174,162	173,523	173,530	173,019	172,337	172,284
ごみ総排出量(トン)	70,040	68,993	67,503	66,004	66,922	63,669	65,408	59,746
可燃ごみの総量 (トン)(焼却量)	40,389	39,100	37,891	36,622	37,284	34,882	36,384	30,852



松尾 たかし

フェイスブック、ツイッター、メールマガジン、ブログを更新中!

(討議資料)

## 比較①費用

費用面で、トータルコストを比較した場合、以下のよう  
に、新焼却施設をつくらない方が、どちらも約 70 億  
円費用が安くなります。

ケース	億円	1との比較
1. 新焼却施設を建設する	292.0	
2. 新焼却施設を建設せず 燃やすごみは 広域で処理する	221.5	△70.5
3. 新焼却施設を建設せず 燃やすごみは 自区外で処理をする	222.3	△69.7

## 比較②環境

環境面の観点から、可燃ごみの処理に伴う温室効  
果ガス(CO<sub>2</sub> 換算)の発生量について、焼却施設か  
らの排出量、収集・運搬に伴う排出量、発電による  
控除量等から検証を行った結果、新焼却施設をつ  
くらない方が、発生量が少なくなります。

ケース	t-CO <sub>2</sub>	1との比較
1. 新焼却施設を建設する	9301	
2. 新焼却施設を建設せず 燃やすごみは 広域で処理する	8259	△1042
3. 新焼却施設を建設せず 燃やすごみは 自区外で処理をする	6605	△2696

## 災害時のリスク

大規模災害が発生した場合には、災害廃棄物処理  
計画に基づき、県を通して国の災害廃棄物支援ネッ  
トワーク(D.WASTE-NET)へ、災害廃棄物等の処理  
を要請して、広域処理を図って対応することとしてい  
ます。

## 比較③安定性

安定性では、新焼却施設を建設することが確実  
になりますが、建設しない場合でも、万が一の場  
合のリスク管理として、民間事業者との協定を締  
結し、また、より安定性を高めるため、委託先の  
施設が稼働休止などで、直ちに処理できない場  
合でも、委託先事業者のネットワークを構成して  
いる他の事業者で処理ができるような体制(バッ  
クアップ協定)も整えることにより、処理先を途切  
れさせない一般廃棄物の処理体制を構築するこ  
とが可能になります。

これらの結果を総合的に評価し、鎌倉市では  
**『焼却施設を建設せずにゼロ・ウェイトを  
目指して、ごみの減量・資源化を進める方  
向に方針転換する』**こととしました。さらなる詳  
細につきましては、広報かまぐら5月1日号、ま  
たは鎌倉市ホームページの『将来のごみ処理体  
制についての方針』からご覧いただけます。

## 第180回 大船クリーン大作戦

**日時:6月1日(土)午前7時から8時**  
(原則、毎月第1土曜日に開催。雨天中止。)  
集合場所 : JR 大船駅東 階段下  
持ち物:軍手、トング(またはちりとり・ほうき)



## ◎お知らせ◎

- ◎この温故知新を、ごみとして捨てる際は『ミックスペーパー』へお願いします。
  - ・『月刊・温故知新』(本紙)を10枚以上配布していただける方を募集しています。  
⇒「やってあげても良いよ」という方、ぜひご連絡下さい!
  - ・この『月刊・温故知新』を、お店の片隅やレジ横などに置かせて下さい!
- ◎定期購読をご希望の方は、無料で郵送しますのでご連絡ください。
- ◎『松尾たかしを応援する会』への連絡先

〒248-0034 鎌倉市津西 1-11-1-2 階(お蕎麦屋「よしむら」さんの2階)

TEL・FAX 0467-32-7186

発行: 松尾たかしを応援する会

